

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1294600018 | | |
| 法人名 | 宝田企画 株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム 宝の里 | | |
| 所在地 | 千葉県香取郡神崎町新365 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年11月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年2月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku./12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|-----|--------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽 | | |
| 所在地 | 千葉県旭市口1004-7 | TEL | 0479-63-5036 |
| 訪問調査日 | 平成28年1月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ、四季折々の美しく静かな環境の中にあり、木造平屋建ての1ユニットのグループホームです。リビングの天井が高く、太陽の光が差し込み、ウッドデッキでは外気浴も楽しめ、自由に過ごされています。職員は理念である「1日1笑」を目標に、入居者様の笑顔を引き出し、自主性や価値観を重視し、心身の取り巻く環境等を踏まえ一人ひとりに適した生活のお手伝い出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念である「1日1笑」、一回笑えば一年命が伸びるという意味を伝え、利用者の笑顔を引き出し、自主性や価値観を重視した取り組みがされている。経験年数が短いので、基本方針やマニュアルなど不備なところも多い。心ひとつにして、これからの施設の方向性などに十分に話し合い、地域の要となるよう励んで頂きたい。今後の課題もたくさん書きましたが、第三者評価の目的を踏まえ、全員で取り組み、学びあい、成長していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入職時に説明をし、施設内にも掲示しています。定期的な会議で話し合いを密にし、全職員は理念を目標とし、日々のサービス提供に取り組んでいる。 | 理念は開設時に作成し玄関ホールに掲示されている。入所時に説明はされているが職員の周知や理念そのものの議論は十分とは言えない。 | 施設長の交代で新たな意欲が見えているので、理念や基本方針など議論を重ねて施設の在り方、支援の方向性に結びつく理念作成を望みます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩時に挨拶を交わしたり、施設内の行事の案内をし、見学に来てもらったりと交流が増えている。 | 周辺は世帯数が少ないが、施設内行事にも少しづつ訪問者が増えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設見学、入居相談に来所された御家族、面会に来られた方に、支援方法やアドバイス等を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町職員、地域包括、民生委員、地域住民、ご家族等を構成員として、会議では話し合った改善点等を踏まえ、より良いサービスの提供を目指している。 | 運営推進会議には各メンバーが参加され、毎回家族の参加も得られている。施設内の取り組みなどが紹介されている。 | 運営推進会議を重ねることにより、信頼関係を深め、本来のサービスの向上につながるよう期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に町職員の参加あり、意見・要望・情報交換等行っている。 | 会議録には、施設の取り組みや行事報告等が記載され、施設の理解を促している。毎月の行事や外出写真などがホールに展示され、取組の理解がされている。 | 利用者さんからの要望なども含め行政の理解が得られるように更に努力してください。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は玄関の施錠は行っておらず、見守り、声掛けにて安全確保に努め、入居者の自由な生活を支援している。 | 入所基準は中等度の方を中心に取組まれているので、身体拘束の対象者はなく、落ちておりました。 | マニュアルは作成されていますが、状態を想定した内容も含め、見直しをしていただきたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待が起こらないような環境づくりを心掛け、虐待防止に努めている。 | | |

[評価機関]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要性の高い方については、話し合いを行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 丁寧な説明を心掛け、不安や疑問を解消出来るような対応に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の面会や電話連絡時に、直接意見や要望を聞き、運営に反映させている。 | 1ヶ月に2回意見を伺い、カンファレンスで検討している。経費削減の意見では夜間は吸収の良い尿取りパットに切り替え工夫している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の意見や要望はもちろんの事、定期的な会議を開催し、意見交換や要望を聞き、反映させている。 | 職員の経験が短く、意見交換されているが模索の段階である。 | 一つにまとまりつつあるので、お互いに忌憚のない意見交換を重ねて全員で働きやすい職場にしていきたい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の努力や実績内容に合わせた給与水準をあげている。今後も職員定着に向け、改善していきたいと考えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に会議を開催し、ケア内容を統一する為にスキルアップの為に勉強会を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 講習会の案内があった際には、呼びかけを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|-------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の困っている事、不安な事や要望は日々傾聴しながら、ご本人が安心して生活を送っていただけるよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族から様々な意見を聞きながら、ご本人への支援に繋げている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他のサービスや急な受診等が必要と判断した場合には、スムーズに利用できるように支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々人の今までの生活を大切にし、その方に合った支援を行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時の交流、状況報告、相談等を通し、支え続けることができるような環境作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出、外泊は自由にしており、知人や友人の来訪等の支援、個々人の生活習慣を尊重した支援も行っている。 | 地域内の利用者さんが多いためか、外出・外泊もされており、面会者も多い。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの性格を把握し、孤立や対立がないように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病状や身体状況の悪化による入院や施設等への入所等で契約終了された際、必要な情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人、ご家族様より、日常生活についての希望や意向を伺い、希望に添える様支援している。又、会議等意見、情報交換しながら、本人本位の検討や情報の共有に取り組んでいる。 | 入所間もない方の心情やご家族の思いを含め希望をかなえられるように配慮している。 | 訪問当日も、家族の面談があり、長い時間一緒に過ごしておりました。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご本人、ご家族様より伺っている。又、必要に応じ、医療機関や他のサービス事業所から情報提供を受けている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の生活での状況を毎日記録し、本人の状況を確認しながら現状の総合的な把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の意向をもとに、会議等で職員や関係者と情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的にモニタリング、評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。 | 月に1回は書式に沿ってモニタリングを行い、半年毎に評価を行っている。本人や家族の意見も職員間で共有し検討している。介護計画にも事実が記載されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常生活の状態は毎日記録し、全職員が確認し、ケアの実践に繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々状況に合わせ、対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご家族、かかりつけ医、福祉事業所等と連携を図り、その人らしく生活が送れるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望を尊重し、かかりつけ医との連携を密にし、医療全般における相談、家族への説明、緊急時の対応等の協力体制も整えている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の様子を記録し、訪問看護師に伝え、相談や指示を仰いでいる。必要に応じて受診を実施している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 施設での生活状況等、即情報提供できるよう対応している。面会時に情報交換や相談を行う等、関係づくりに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時にご家族へ説明し、同意を得ている。ご家族の意向の把握に努めると共に、終末期、重度化した場合は、協力病院と連携を図りながら意向に沿った支援ができるよう体制を整えている。 | 契約時に説明と同意書は備わっているが、中等度の方が入所しているので該当者はなく、協力病院との連携体制を整えている段階である。 | これからの取り組みとなるであろうが、職員間の十分な研修や討議を深め、ご家族の理解や協力が得られるよう研鑽していただきたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応方法のマニュアルを常に目のつく所へ保管し、勉強会も定期的を開催し、緊急時に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域担当の消防署の協力のもと、防災避難訓練を実施している。 | 通報装置や消防署との合同の防災訓練や利用者の避難誘導や車いす搬送の訓練も行われている。災害対策マニュアルはなく、夜間想定や安否確認・職員の応援体制なども検討が不十分である。 | 地域の協力体制も話し合いがないので協力体制が取れるよう、幅広く検討していただきたい。 |

[評価機関]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに合わせた言葉づかいで声掛けし、プライバシーに配慮した対応に努めている。 | 声掛けなども頻繁に行われ、丁寧な対応がされておりました。トイレの数も多く、さりげない誘導がされていました。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に本人の話を傾聴し、ご本人の気持ちをくみ取る様に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの状況、状態に合わせてながら、無理強いせず、出来る事を探しながら充実した日々を過ごせる様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせて、衣類を整理し、ご本人らしい衣類の声掛けをし、支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の希望や能力に応じて、食事の準備、片付け等、職員と共同で行っている。 | 時には材料を刻んだり、後片付けも自然に行っている。調理室はオープンで調理風景も見ることができている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は毎食チェックしている。一人ひとりの口腔内状況や嚥下状態に合わせた、食事形態を工夫し提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施している。定期的に訪問歯科にて口腔内の調整、掃除を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛けや誘導を行い、排泄の自立支援を行っている。 | 排泄自立者が多く、夜間おむつは2名である。排泄チェックリストも活用し、さりげない誘導を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日中の活動量を増やしたり、食事形態の工夫や水分量の確保を心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | その日の体調、状況、希望に応じて対応している。 | 入浴回数は概ね週2回ではあるが本人の希望を取り入れ時間や回数は自由にしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人のペースに合わせてながら対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の内容の理解を深め、必要に応じて主治医と相談しながら見直しを実施している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの出来る事や趣味等を把握し、日々の楽しみや、気分転換が図れる様支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者様の希望、天候、体調等に応じて散歩、買い物、ドライブ等の外出支援を行っている。ご家族様との外出、外泊も可能となっている。 | 花の時期は近所のひまわり畑を散歩し、買い物・ドライブ・外出支援等も行っている。毎月の行事には笑顔いっぱいの写真が掲示されていました。家族との外出も取り組まれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金については、ご本人、ご家族様の意向を伺い、その状況に応じて支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の要望に応じている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を取り入れながら、必要に応じて音楽や映像を活用する等、居心地の良い空間作りに取り組んでいる。 | 共有スペースはテーブルとイスが配置されている。 手すりの太さ・高さも適正で、自然の採光・空調・TVなど、自由に使用できている。 | リビングは椅子だけなのでソファや畳の配置等も検討し、くつろいだ空間の工夫をされたい。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自室、リビング、ウッドデッキ等、思い思いに自由に行き来している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で馴染の物や愛着のある物を持参して頂き、居心地良く生活できる様に配慮している。 | 大方のお部屋にはベッドのみの配置で、クローゼットに備品等が収納されている。 居室の広さは十分であるが、個人の好みや家具や家族の写真は見当たらなかった。 | 生活の匂いのする空間配置をご家族含め検討されても良いのではないかと。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全館バリアフリーとなっており、廊下、トイレ、浴室等に手摺りを設置している。 | | |

#####